



例会報告 Rotary



イマジン
ロータリー 会員増強委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 垣内 秀文
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 大村 貴之
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 中島 一成

<会長の時間>

コロナ禍に入って、3回目のバレンタインデーが3日前にありました、皆さんは例年通り沢山のチョコレートを買ったのではお察しいたします？ 私は決して疑われることのない、無難な方々に最近では世話チョコと呼ばれる物3個で終了しました。私自身年々貰えるチョコは明らかに減少傾向です、プレゼントされるチョコにもいろいろ事情があるようですが、当然来月には恒例の倍返しを考えねばなりませんね。皆様お疲れさまです。

ところで今年のバレンタインデーはというと「思っていたより落ち着いていた」「テンションが低かった」という地味な印象があったので、年に一度のイベントに相応しい期待感や高揚感のようなものは感じられなかったようです。

そんなときに発表されたのが「いまだバレンタイン事情」というアンケートで、まず「女性に尋ねたバレンタインに個人で用意するチョコレート、今年の予定は？」という調査では「家族チョコ」が41%「自分チョコ」が13%「友チョコ」が11%「世話チョコ(世話になっている方へ)」が8%「義理チョコ」が8%「本命チョコ」が7%「渡す予定はない」が43%という結果でした。

特筆すべきは「渡す予定はない」が4割を超えていることです。この調査には「自分チョコ」という項目も入っているため、バレンタインデーそのものを無視する」というのが現状です。ちなみに渡す予定はない20代女性が4割を超えていることに驚かされますが、そもそもバレンタインの歴史は、西暦1207年2月14日、ローマの皇帝が結婚を禁じた事に反抗し殺された、聖人ヴァレンチノを祭る日に由来しているようです。

当時皇帝は兵士らに家族ができることと軍事力の「士気」が弱まると考え、結婚を禁止していました。ところがキリスト教の司祭であったヴァレンチノ(バレンタイン)が皇帝に秘密で若者たちの結婚を行っていたため、皇帝は怒りローマ宗教に改宗させようとした。ところが、ヴァレンチノは愛の尊さを説き皇帝に抵抗したため、2月14日に処刑されてしまったのです。後世の人々は、ヴァレンチノ司祭の勇気ある行動に感動し、「聖バレンタイン」と恋人の守護神としてまつようになりました。ヴァレンチノ司祭が処刑された日を「聖バレンタインデー」と呼ぶようになったのはこれに由来しています。

バレンタインデーは、14世紀頃から男女の恋愛に結びつけられるようになり、日本には戦後アメリカから伝えられたといわれています。今では、日本で当たり前になった外国の風習の一つなのですが、バレンタインの他にもハロウィン、クリスマスなど日本には多くの輸入された行事があります。しかしそれは行事として行われているのではなく、殆どはただの祭りのようなノリで楽しむ。更にそれに便乗して企業は商戦イベントを行い宣伝する、そして売りまくる。ハロウィンやクリスマス本来の行事の意味合いは既にそこには全く存在せず、もはや日本独自の文化になってしまい、それを肯定する人もいれば、そう思わない人もいます。

話を戻しますがバレンタイン時のチョコレート消費は年間の30%弱とは驚きで、相当なビジネスシーンになっているのは間違いないようです。ただ様々な問題もあるようで、学校によっては校則で禁止しているところや職場においては、下手するとセクハラ問題

に発展することがあり、最近はその習慣も落ち着いてきているようです。

先にも申しましたが、一か月後のホワイトデーもお菓子屋さんが仕組んだようでしっかり定着して未だに我々男性を苦しめています。因みに4月にオレンジデーとかブラックデーとか作られましたが、あまり浸透していません、そこで我々ロータリアンにはロータリーデーと言う貴重な体験のできる日が有る事を是非とも心に止めて下さい。

ロータリーデーは近隣クラブが合同で開催する、又は地区レベルで大規模に実施する事も可能でクラブは、その内容を自由に決める事ができます。大切なことは参加者が楽しみ、関心を持てるようなイベントにする事です。紹介しますと●屋外でのピクニックやバーベキュー大会●スポーツ行事やコンサート●家族向けマラソン大会●美術館やカルチャーセンターでのイベント等々色々あります。

本日お伝えしたいのが●地元のお祭りやイベントに併せた催しで、幹事報告で有りましたが零宮祭りが行われる際に高山3クラブが協力し「ポリオ・根絶」の募金活動を大々的に行う事にも繋がります。当日は祭で大勢の方が集まり、メディアも来ますのでしっかりとロータリー活動のPRを兼ねた募金活動が行える、これこそが正にロータリーデーです。出来るだけ全員参加で実施したいと考えています。今後も地域の方にポリオ撲滅への理解を深める為に高山3クラブで活動に力を注いで参ります。

<幹事報告>

◎飛騨地区生徒指導連携強化委員会より

- ・令和5年度版「あつたか言葉かけ運動カレンダー」の送付について

<受贈誌>

高山(会報)、米山記念奨学会(ハイライトよねやま vol1275)、和光(ロータリーカタログ)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
32名	-	32名	36名	88. 89%

<オープン例会ご来訪者紹介>



山都印刷(株)
専務取締役
平 康裕 様



第一物産(株)
代表取締役
島 宗平 様



(株)岩ト屋
代表取締役
岩畑 慎哉 様

例会報告

<本日のプログラム> 会員増強委員会

委員長 松田 康弘

今期二回目の担当例会になりますけれども、前回に引き続きまして高山地区で活躍中の若手経営者の方をお招きしご講話をいただきます。若手経営者の方が、どのようなお考えをお持ちで、どのようなことに取り組んで見えるのか見識を深めて参りたいという事で、本日は山崎裕孝様をお招きしております。略歴を簡単にご紹介いたします。



1985年生まれ、現在37歳でいらっしゃいます。北海道の出身で高校卒業後、様々な職業を経験した後、自動車メーカーに勤務。趣味で打ち込んでいたドローンレースの技術を社会課題解決に活かせるのではないかと考え、飛騨市の地域おこし協力隊として2020年10月に着任され、23年9月まで任期となっている中、2022年1月に(株)ドローンコンシェルジュを設立されました。会社内にレース場を設け、子供たちにドローンレースの指導、全国大会でのディレクションとして活躍されています。またドラマ、映画の撮影や、オランダ国営放送の撮影協力、森林組合やコンサル業者からの測量依頼、高校生対象のICT 授業、遭難・行方不明者の捜索等、ドローンを活用した様々な社会課題の解決に取り組んでおられるところがございます。昨年12月には、災害時の対応で白川村と行政支援に関する協定も締結されました。

本日はドローンの今後の可能性ですとか、活用方法を中心にお話を聞きたいと思っております。それではよろしくお祈りいたします。

(株)ドローンコンシェルジュ 代表取締役 山崎 裕孝 様

無人航空機にはいろいろな種類があり、中でもマルチコプター(三枚羽根以上のもの)を通称ドローンと日本では呼んでいます。このドローンは、5年ほど前までは、空撮や写真が主な使い道でしたが、当時のドローンは操縦ミスをするとうっかり飛ばしてしまうような簡単な機械でした。中でもホバリング(空中停止状態)をするのは非常に難しいテクニックでしたが、今では自動ででき、触っても元の位置に停止するといった機能も備え、飛び立った位置を記憶させることとすることで、機体のバッテリーを自動計算し、墜落することなく帰ってくることも可能になっています。



岐阜県は来年度予算として、ドローン開発に補助金を出すといった非常にドローンに対して先端を進む県でもあります。先日、滑川市にある会社が運搬重量30kgが可能なドローンの販売を開始しました。私もその会社に呼ばれ、アドバイスを致しました。

昨年、ドローンに対する法改正が行われ、人口密集地での空輸配達が可能になるような制度も設けられ、この地区では、へき地への空輸がドローンの機能によっては可能になるかも知れません。

弊社がこれまで行ってきました事業としては、別荘にて撮影や測量、また、最近では白川村様との行政支援に対する協定を締結し、世界遺産である合掌造り集落の維持管理にお役に立てればと思います。昨日ですが、同じ世界遺産である五箇山地区のある南砺市様にプレゼンをさせていただきました。非常に良い反応を頂きました。現状、飛騨市、高山市、南砺市にはドローンの可能性をご説明し、人材不足、危険回避、費用面での削減等提案させていただいております。また、森林組合への森林調査、取壊しが決まった建物の3D映像の提案などもしています。

今から測量や、鳥獣被害などの映像をご覧になって頂きたいと思っております。まずは、測量から……。次に鳥獣被害の映像……。建物の3D映像……。屋根の点検も行っており、これも映像でご説明します。

このようにドローンの可能性は非常に広く、人命救助の補助として高山山岳警備隊への協力もお話させていただいております。我が社は、地域貢献も担っていると考えており、小学校の避難訓練や記念行事での人文字などの空撮、ヘリコプターではできなかった撮影の依頼を頂けるようなお仕事をしたいと思っています。また、今まで目視にて点検していましたが送電線やその他の点検業務は、目視からドローンでの点検が可能になることが来年度から始まります。

私は、ドローンレースにハマリ、それが一番で地域おこし協力隊になった経緯もございます。12月に米沢市で行われたドローンレースのディレクションも行い、今年は、飛騨市でドローンレースの開催を計画中です。

今後は、益々ドローンを使った事業が可能になる時代に来ていきますので、皆様のお役に立てることが出来るよう、なんでもご相談頂ければ有難いと思っております。

短いお時間でしたが、ご清聴ありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●垣内 秀文さん、大村 貴之さん

(株)ドローンコンシェルジュ代表取締役 山崎 裕孝 様、谷口 祐一 様、お忙しい中お越し頂き有難うございます。卓話楽しみにしております。またオープン例会に参加いただいた岩畑様、島様、平様ありがとうございます。例会を楽しんで下さい。

●松田 康弘さん、遠藤 隆浩さん

本日は会員増強委員会の担当例会です。(株)ドローンコンシェルジュの山崎 裕孝 社長様、谷口 祐一 様にお忙しい中ご来訪ありがとうございます。後ほどのお話を楽しみにしております。また岩畑真哉様、島宗平様、平康裕様、ようこそお越し頂きました。ご入会もお待ちしております。

●長瀬 達三さん

島さん、平さん、ようこそ高山西RCへ。来月のご入会をお待ちしております。

●折茂 謙一さん

誕生日ありがとうございます。7日で満85歳になります。私は生まれた直後から次から次に悪運に会って来ました。何故私はひどい目に遭うのかと思っていました。ところが不思議なことに悪運はいつの間にか幸運に変わっています。私の背中には幸運の女神がピッタリ張り付いて危機一髪になると必ず助けてくれるようです。この3年間私は片足を棺桶に突っ込んでいました。今年になって何とかが抜け出せそうな気配がしています。

●古橋 直彦さん

久しぶりの例会出席ですが私用のため早退させていただきます。

●平 義孝さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、米澤 久二さん、

田中 武さん、堺 和信さん、鴻野 幸泰さん、塚本 直人さん、

下屋 勝比古さん、田中 晶洋さん、田邊 淳さん、

中部縦貫自動車道の未着工の平湯から丹生川日面までの区間約20kmについて、国土交通省中部地方整備局は全線を自動車専用のバイパスとする方針を固めました。西側は現在の道路を改良し東側はバイパス整備する案と、国道158号線を活用し不良箇所を部分的に改良する3つの案が検討されていましたが、降雪時の安全走行や迅速な救急搬送が期待できるということで、トンネルを主とした全線自動車専用道路のバイパスが選ばれました。現在工事中である丹生川ICまでは来年度中に開通予定で、平湯までの早期開通を期待しニコニコへ。